

浅子谷古墳群(第2次調査) 現地説明会資料

平成 21 年 9 月 12 日 13:30～

三重県埋蔵文化財センター

遺跡名：あさこだにこふんぐんたかおきたしぐん浅子谷古墳群高尾北支群 1 号墳・2 号墳・6～10 号墳

原因事業名：平成 21 年度道路改築事業 一般国道 4 2 2 号三田坂バイパス

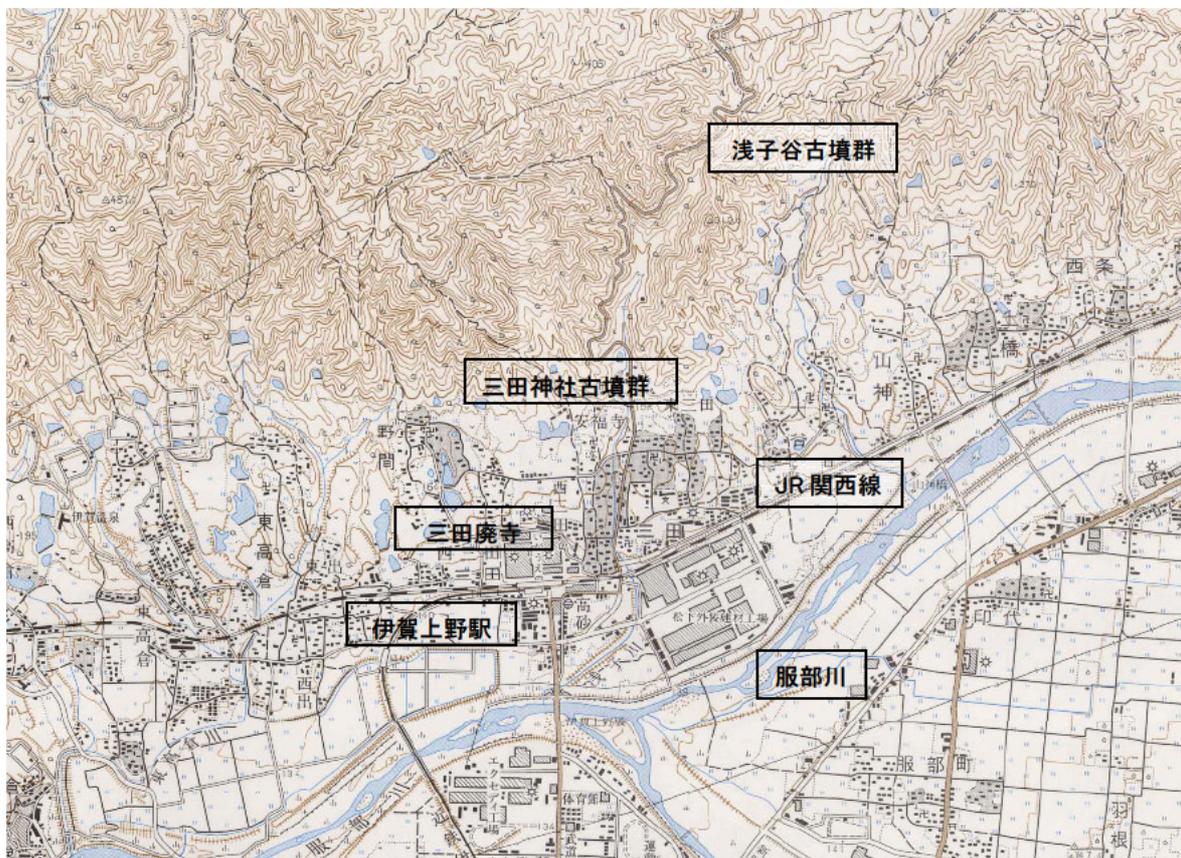
調査主体・担当：三重県教育委員会 三重県埋蔵文化財センターまいぞうぶんかざい

調査協力：地元自治会・県伊賀建設事務所・伊賀市教育委員会・三田小学校

所在地：三重県伊賀市三田みた字高尾

調査期間：平成 21 年 6 月 16 日～21 年 10 月 15 日 (予定)

調査面積：約 5 0 0 m²

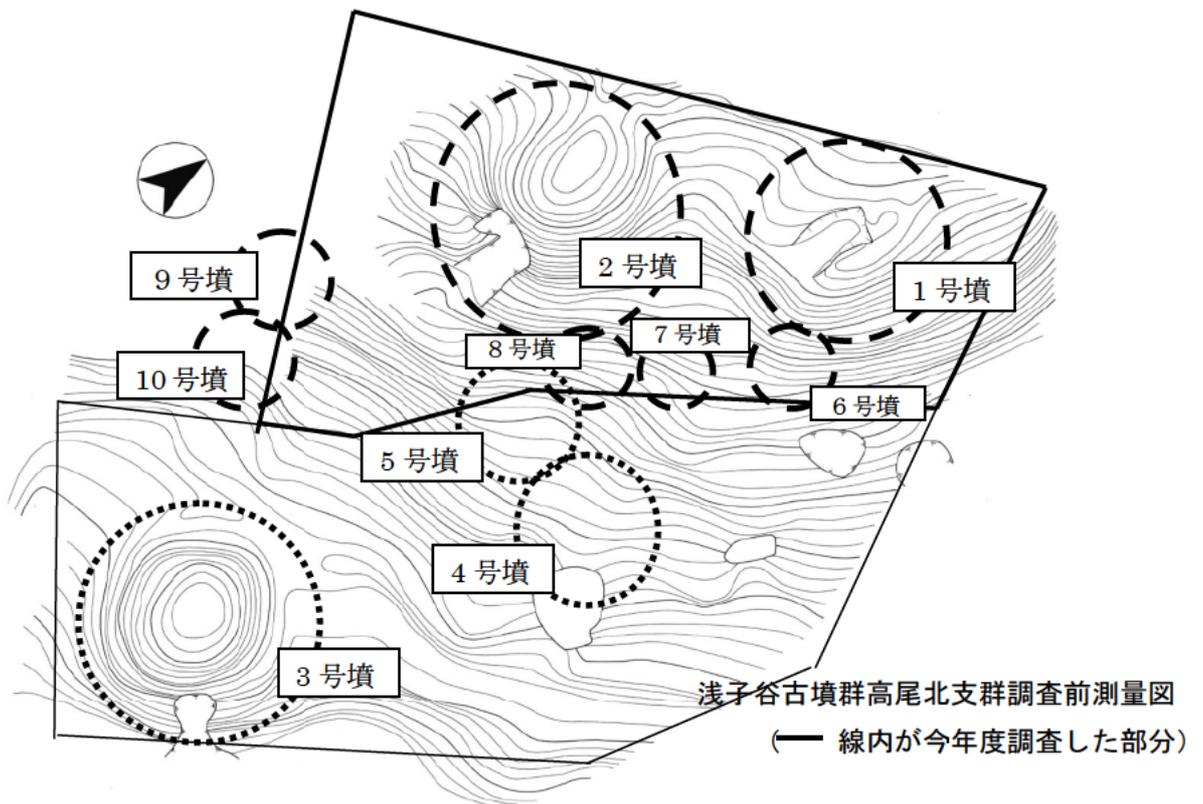


はじめに

遺跡の場所

浅子谷古墳群は、伊賀市三田地区から北に約1.5kmの丘陵部にあります。

三重県埋蔵文化財センターでは、昨年度に続いて国道422号三田坂バイパス工事に伴い、6月下旬から発掘調査を行ってきました。このたび、その成果がまとまりましたので、現地説明会を行うことになりました。調査の結果、1・2号墳と昨年度調査した3～5号墳に加えて新たに5基の古墳が見つかり、合わせて10基の古墳群となりました。この古墳群は見つかった土器などから6世紀後半から7世紀中ごろに造られたとみられます。



1号墳

調査前から天井石てんじょういしがなくなっていて、石積みが見えていました。墳丘ふんきゅうの大きさは、直径約12m、高さ約4mです。墳丘の



1号墳全景(南から)

山側には溝がめぐってしゅうこういました(周溝)。谷側の裾には石を並べています(外護列石)。土が流れるのを防いだのでしょうか。

死者が葬られている石室せきしつは南に向かって開いています。石室の大

きさは全長3.6m、幅1.4m、高さ2.4mでした。

羨道せんどう(石室への通路部分)は全長4.2m、幅1.0mでした。羨道から耳環じかん・須恵器杯身すえきつきみ・杯蓋つきふた・小形壺つぼ・

平瓶ひらかなどが見つかりました。石室からは鉄釘てつくぎが見つかりています。



1号墳羨道部 土器出土状況



2号墳

調査の前から石室が開いていて中に入ることができた古墳です。墳丘は直径約14m、高さ約5m。石室は長さ4.2m、幅2.2m、高さ2.7mで、1m余りもある大きな石を積み上げています。羨道は幅1.6m、長さ5mを測ります。伊賀盆地では標準的な石室といえます。

石室の中はこれまでに盗掘にあっていて、ほとんど遺物は残されていませんでした。近世の陶磁器や「寛永通宝」が見つかっています。羨道部から見つかった須恵器から6世紀



後半に造られたものと考えられます。石室の規模や墳丘の大きさから、この古墳群の中では最初に造られたと考えられます。



6号墳・7号墳・8号墳



1号、2号墳の南東側で発見しました。石室の方向が、1、2号墳は南を向いているのに対して、6、8号墳の石室の長軸は北東-南西方向にのっています。7号墳は南北方向にのっています。



6号墳全景

←6号墳→

1号墳の南東裾で発見しました。墳丘裾の斜面を掘こんで造られたようです。長さ2.5m、幅1.1m、高さ0.6m(現存)の小石室でした。石室の中から須恵器杯身・杯蓋・提瓶、土師器碗、小刀、刀子が出土しました。

7号墳

長さ 1.2m、幅 0.4m、高さ 0.5mの小石室でした。土器類は見つかりませんでした。耳環が1点残されていました。



8号墳



2号墳の東斜面裾で見つかった小石室です。

6号と同様に斜面を掘りこんで造られていました。掘り込んだ穴の底から石を積み上げて小さな部屋を作り、その上に平らな石をのせて天井としています。石室の大きさは長さ1.4m、幅0.7m、高さ0.9mでした。内部には棺を乗せたと思われる丸い石が4個と、長さ50cmほどの平らな石が置かれていました。

石室内には土器類はなく、鉄鏝が3点出土しました。

